

福井県公共工事入札監視委員会の開催概要について

このことについて、平成26年度福井県公共工事入札監視委員会（第1回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

1 日 時 平成26年6月6日（金） 9:30～11:30

2 場 所 県庁3階 第3委員会室

3 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、清水委員、藤井委員（五十音順）

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議題

- ・入札および契約に係る制度の運用について
- ・抽出事案審議
- ・談合その他の不正行為に関する事項について

(3) その他

(4) 閉会

5 会議概要

(1) 入札および契約に係る制度の運用について（平成26年1月1日～平成26年3月31日）

- ・契約件数、落札率の状況について説明
- ・指名停止の運用状況について説明
- ・総合評価落札方式の実施状況について説明

Q 総合評価落札方式によった工事とそれ以外の工事の工事成績評点の分布を示した資料は、総合評価落札方式とした場合の方が、平均点が高く、かつ、評定点の高い工事の件数も多いということの説明したいということか。

A そのとおりである。

(2) 抽出事案審議（事前に金崎委員が抽出）

ア （県単）区画線工事（ゼロ県債）

Q ゼロ県債は、どのような工事で使われているのか。

A 除雪後の区画線設置、梅雨期前の河川の浚渫、道路側溝の補修など、新年度を待たずに早期の着工が求められる工事が多い。

Q 工事の設計額について、1メートル当たりの単価が高いのではないか。

A 溶解車により施工する中心線の設置については低単価であるが、矢印や文字については、ハンドマーカによる手作業であるため、割高になる。

Q 落札率が平均的な最低制限価格の割合より高いようだが、どのような理由が考えられるか。

A 小規模な工事については、利益率が低いので落札率が高めになる傾向にはある。また、発注量が増えたことも一因ではないかと考えられる。

イ 道路防災対策工事（防災・安全交付金（補正予算））

Q 落札者の技術評価点が最も高くなっているが、どの項目で差がついたのか。

A 工事成績が高くなっている。

Q 設計額が高いのではないか。

A 新技術を用いた落石防護柵のため、材料単価が高くなっている。

Q 法面処理工事の場合、標準的な評価基準では、法面処理工事に係る資格保有者を加点点評価するのではないのか。

A 法面処理工事のうち、アンカー工またはモルタル吹付け工の場合に限り、資格保有者を加点点評価している。

Q 入札参加条件で1級または2級の土木施工管理技術者を求めた場合、総合評価落札方式で1級技術者を配置する場合に加点点評価をするのではないのか。

A 土木一式工事の場合に限り、そのような評価を行っている。

ウ （県単）港湾維持補修工事その8（県単）港湾管理工事その19 合併工事
特になし。

エ 平成25年度中山間地域総合整備事業（一般型）小浜東部地区第4号工事

Q 1者入札であったが、入札の競争性は確保されているのか。他府県でも、1者入札を有効としているのか。

A 事前に、入札参加条件を満たしている業者が20者いることを確認しており、競争性は確保されていると考えている。1者入札を有効としている例は、他府県に多数ある。

オ 福井県防災情報ネットワーク再整備工事

Q 技術提案の評価は、どのように行ったのか。

A 総合評価技術委員会の意見を聴いて適正に評価点を決定している。

Q WTOの適用がある県発注工事で、過去に海外の建設業者が応札した事例はあるか。

A ない。

Q 防災行政無線の整備は他府県でも事例があると思うが、他府県でも1者入札だったのか。

A 3県の事例を調査したところ、2県で1者入札、他の1県では3者が応札していた。

(3) 談合その他の不正行為に関する事項について
「該当なし」と報告

(4) その他
特になし。